

第1回連携強化懇談会を開催

第190号

発行日 2023年10月25日

発行者 JAMシニアクラブ
mail jam-senior@jam-union.jp

JAM ニューアルバム

癡行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本部内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

地域組織の確立 会員間の絆の促進を



主張

「今、思う」と
2022年12月に山梨
者連合の会長（JAM）
シニアクラブ会長兼務
任しました。そのため、
全国高齢者集会や地方
会議などへ
引退しているのに労働運動
に対する思い、日本の平和
についてなどを現役時代と
同じくらいの熱き想いで議
会長 遠藤長男
山梨シニアクラブ

「今、懇ぐ」と

JAM安河内会長から、冒頭、連合、JAMで23年春闘を上回る要求に向け、24年春闘の議論が始まったことと、25年参議院選挙でJAM組織内候補予定者「郡山りょう」の必勝に向け本人の各単組への訪問など活動が行われていて、これらが行なわれていて、ながら挨拶がありました。

度第1回の連携強化懇談会を開催しました。現役からは安河内会長、中井書記長、川野、椎木両副書記長、木村組織グループ長が出席しました。

J A M本部会議室で10月
11日、J A M現役の専従三
役とJ A Mシニアクラブ三
役とでJ A Mシニアクラブ
の課題などを話し合う本年

健康保険証廃止反対の連合現役の協力要請
郡山りょうの必勝に向けての取組みを確認

私より何年も前に現役を引退しているのに労働運動に対する思い、日本の平和についてなどを現役時代と同様くらいいの熱き想いで議会や地 方代表 者会議などへ

J A M 中井書記長、A M シニアクラブ田中副会長からのそれぞれの大い会、総会の報告の後、シニアクラブの組織・強化などの意見交換を行いました。意見交換では、①都府県ごとに組織されている31地方シニアクラブと現役の17地方J A Mとの連携・強化、②人口減少した。

また「郡山りょう」必勝の取り組みではシニアクラブ独自のリーフレット作成などの活動を強化することへの現役の協力要請をしました。

会長からは、日本退職者連合が行つて いる団体署名に触れながら来年秋の健康保険証廃止反対に連合現役の協力を要請し、

少時代で、税・社会保障の見直しが必至であり、子育て・子ども支援、介護、医

追求していくこと、②では幹事会で子育て・子ども支援、介護、医療、年金の政

ルで開催されました
2020、2021は
コナ禍で2年連続中止、

2012年第二次安倍政権が発足したあと、「官製春闘」が定着しましたが、組合要求は賃金だけでなく、

24年度活動方針の具体化では、①会員の拡大、②政策制度要求、③政策実現活動について協議しました。①では都府県ごとに組織されている31地方シニアクラブに関する17地方JAMでの位置づけの共通認識を現退で進め、地協役員OB会とシニアクラブの連携を現役に依頼し、会員の拡大を論しているのを目の当たりにして、感銘を受けました。私は、労働運動が時代の変革から大きく変わり、組

10月11日、連携強化懇談会に先立ち、第1回三役会議を開催、①定期総会の質問・意見への対応、②24年度活動方針の具体化について協議しました。

療、年金の政策での現退の協力強化、③「郡山りょう」の機材での迅速な連携などを進めることにしました。

追求していくこと、②では幹事会で子育て・子ども支援、介護、医療、年金の政

ルで開催されました
2020、2021は
コナ禍で2年連続中止、

退職者
連合

2023全国
高齢者集会

「生き生きと安心して暮らせる社会をつくるう」をスローガンに、9月19日、日本退職者連合主催の「023全国高齢者集会」が東京都・文京シビックホール

する」「社会保障制度や
齢者へのサポート事業の
善は必要不可欠すべての
が生き生きと安心して暮
せる社会を目指す」など
挨拶がありました。

労働者一人ひとりの声に耳を傾け、悩みに向き合い労働環境改善にも取り組む、そこそが組合の存在感を發揮すると考えています。組合活動の基盤は職場活動であります。

グローバリゼーションの進展に伴い、組合活動に変化が出ても組合は会社の最大のステークホルダーとして、時代に即した組合活動を展開し、雇用確保、労働諸条件の改善に取り組むべきと改めて思いました。

連合本部 立憲民主党
国民民主党、社会民主党
来賓の挨拶のあと、内閣
の「エイジレスライフ」
表章、今回は知的障がい
子どもたちに水泳指導を
ている長崎県「諫早ペン
ンクラブ」の池田敦・博
ご夫妻が受章されました。
その後、多摩大学学長
評論家の寺島実郎氏よ
り「世界の構造変化と日本
未来（ジェントロジー（
齢化社会工学）とは何か）
と題する講演がありました

大阪定期総会を開催

原正巳事務局次長

J A M西日本会館で開かれた大阪シニアクラブの第23回年次総会には、会員、役員、来賓など47名が参加。

請する、などの方針を提起した。政策制度課題では、現行の健康保険証のマイナカードへの置き換えに反対し、現行の健康保険証の廃止を撤回するよう求めていく。政策制度、実現活動では、2025年参議院比例代表選挙に立候補を予定している郡山玲の必勝に向けて現役組織と連携した取組みを全力で推し進める」ことを提起。

参加者の質疑では、「提

回すべき。立憲民主党は、そのための法案を臨時国会に提出する予定」という事も紹介された。

群馬定期総会を開催 鈴木英二 通信員

群馬シニアクラブ第21回定期総会が10月5日、4年ぶりの対面式で前橋市『ホテルラシーネ新前橋』で開かれました。

行衆議院議員、組織内議員の三好義春摂津市議から挨拶を受けた。

議事に入り、狩谷道生事務局長が、2024年度活動計画を提案。その中で、中央方針である「10%の会員拡大」に向け、①単組ニア組織の結成、シニア会員のいない単組では、「最も一人の参加を求める」とを追求する、②地協OB会未組織地協における組織化の追求、③定年再雇用者を組合員・非組合員にかかる

起されたそれぞれの方針について、会員に対する行動参加の呼びかけを行つてほしい」、「高齢者には優秀な人材がいる。シニアクラブとして人材バンクなど作つて、人材を派遣するような取組みを行つてはどうか」、「健康保険証の廃止など、かなわん、今までよい」、「健保の事務局で働いていけるが、資格確認書を発行するのは、我々。マイナ保険証にもメリットがあるが、今の健康保険証を残すべきだ」等の意見が出された。

総会では、菊池次郎会長が「社会保障充実、政策制度実現、シニアクラブ会員の拡大に向け、JAM本部・JAM北関東群馬県連との連携を強化して取り組んでいきたい」と主催者挨拶を行いました。

東京定期総会を開催

東京シニアアクトは10月5日、参議院議員会館会議室において第23回定期総会

役員・代議員の計33名が出席、来賓としてJAMシリアル本部・那珂副会長、JAM東京千葉・和田委員長

にご挨拶を頂き、そして2025年に予定される参議院選挙の予定候補・郡山りよ

うさんからは、力強い決意と挨拶を受けました。

「会活動報告」を開催。国会質問では、電気代が急上昇する中で、費用減免を求める

る声が多く寄せられ、費用減免実現を国に訴え続けてきました。結果、国が地方

自治体に推薦する補助金額
目に、電気代の特別高圧契
約の費用減免が追加され
た。また、
登録の銀行を改めること。

経過の報告を受けました。
総会では、大会議長・高
村豊さん（JAM東京千葉
書記局）の議事進行で過年な

度経過報告・決算報告。2024度の活動方針・予算の審議。任期満了に伴う役

員選出を行いました。



千葉 定期総会を開催 蝦名秀信 通信員

千葉シニアクラブの第23回定期総会が10月5日(木)

A black and white group photograph of about 25 elderly men and women, likely members of a senior club. They are arranged in three rows: a back row of standing individuals, a middle row of seated individuals, and a front row of seated individuals. They are all dressed in formal attire, such as suits and blouses. Above the group, a banner hangs on a white wall, which reads "J/M 喜連シニアクラブ 2024年度定期総会".

にホテル「ポートプラザちば」で、来賓含め43名が参加し開催。当日は、残暑が急に「肌寒い日」となり、学習会、定期総会、懇親会の三部構成で実施。

学習会は弁護士・井原慎吾さんによる「特商法の課題と法改正の必要性について」の講演を開催。定期総会では、2025年7月に予定されるいる参議院選挙に出馬の「郡山りょう」支援を含む議案を満場一致で採択されました。臨時国会を控え解散もちらついて政治の季節到来の気配で来賓の皆様の挨拶も大変熱が入っていました。

「失われた30年～40年」「今だけ、金だけ、自分で、ショックドクトリン」など日本を、我々の取り巻く環境は異常の気象のようにまさに異常事態です。